

for immediate release

7 JUNE 2007

Heiligendamm, GERMANY

報道各位

**気候変動問題の解決に取り組む国々の更なる努力を求める
「日本政府のリーダーシップを期待します」**

ドイツ・ハイリゲンダムで開催されている G8 サミットは、さまざまな交渉の末、気候変動に関するテキストをとりまとめました。2008 年 G8 サミット NGO フォーラム：環境ユニットを代表し、現地の政府間交渉に参加している NGO は、今回の G8 の国々の合意に対し、以下のコメントを発表します。

2007 年 6 月 7 日
ドイツ・ハイリゲンダム、午後 6:00 時

大林ミカ 環境エネルギー政策研究所：+49(0)1520-5743-112
小野寺ゆうり CAN JAPAN：+81-(0)90-6504-9494
2008 年 G8 サミット NGO フォーラム・環境ユニット

昨日 6 月 6 日から三日間、ドイツ有数の保養地ハイリゲンダムにて、世界でもっとも裕福な国々の首脳達が集う G8 サミットが開催されている。

今年前半、相次いで発表された IPCC の第四次報告書が、気候変動問題の深刻な現状を伝えた中で開始された今回のサミットでは、問題の解決に向けて、各国首脳が自国の利害を超えてどれだけ共同で立ち向かえるのかに、大きな注目が集まっていた。

先ほど発表された気候変動問題に関する宣言をみる限り、残念ながら、各国首脳達が、気候変動問題の解決に向けて十分な努力を開始したとは言い難い。

首脳達は、2050 年までに世界全体で温室効果ガスを半減する約束を、一丸となっていくことができなかった。また、この約束を掲げた EU 諸国、カナダ、そして日本も、具体的な基準年を明言しないことで、自らの大きな責任を曖昧なものにしてしまった。

さらに、気候変動の与える壊滅的な影響を避けるために、すでに多くの科学的研究が指し示している、工業化以前より「2 未満」の温度上昇に抑えるという指標にも合意することができなかった。気候変動を解決するために提案されていたエネルギー効率の数値目標なども、合意文書から、まったく姿を消してしまった。

しかしながら、私たちは、G8 の首脳達が、現在すでに確立している国連気候変動枠組み条約のプロセスを、気候変動問題解決のための交渉の場として再確認し、すべての国々が議論に参加することを前提としたこと、このプロセスにおいて 2009 年までに京都議定書の第一約束期間の次の枠組みについての合意を行うことを明確にしたこと、同時に、ロシア、米国を除く国々の首脳達が、気候変動問題の解決に向けた長期目標について、新しい決意を世界に向けて表明したことを歓迎する。また、このような結果をもたらした、欧州の国々、とりわけ主催国であるドイツのメルケル首相のリーダーシップを高く評価し、また、気候変動問題の解決という、新しい役割に挑戦した日本の安倍首相の姿勢についても評価したい。

私たちは、国連の下で行われる今後の政府間交渉に於いて各国がどのように今日の約束を果たしていくのか、また、日本の来年の G8 に向け、日本自身の具体的な行動を求めるものである。